

香港のオルタナティブ・フード・ネットワーク

ライフスタイルとしての農と「ローカルの罠」

武蔵大学：安藤丈将

1. 目的

本報告は、香港のオルタナティブ・フード・ネットワーク（AFN）に焦点を当てる。香港では、近年、政府主導で新界地区の開発プロジェクトが進められており、それに対して多くの人びとが生産、エコロジー、民主主義という観点から抗議に加わっている。この抗議者の中から、有機農業を始めたり、ファーマーズ・マーケットを組織したりして、アグリビジネスの影響から独立した AFN を構築する人びとが出てきている。報告のねらいの一つ目は、彼らの行動を支える価値意識を明らかにすることである。

最近の AFN の研究では、「ローカルの罠（local trap）」に注目が集まっている。それは、AFN のローカルな食が条件抜きに価値のあるものと見なされるために、その内部の問題点が見逃されることを指す。特に焦点を当てるのは、AFN での化学肥料や農薬を使わない食の純粋さの追及が、それ以外の食のあり方に対する攻撃につながるということである。香港の AFN における「ローカルの罠」について検討するのが、報告の二つ目のねらいである。

2. 方法

調査の対象とするのは、菜園村生活館と馬寶寶社区農場の二つである。両者はともに香港の新界地域に位置するコミュニティ農場であり、その参加者は開発プロジェクトに抗議しながら、農場の運営に携わっている。映像、インタビュー、文書資料をデータに使いながら、いかなる価値意識が人びとを AFN に向かわせているのか、「ローカルの罠」はいかに現れているのかを検討していく。

3. 結果と結論

分析の結果であるが、第一に、AFN 参加者の語りには、香港の近代化や工業化のあり方に対する内省を見て取れる。しかもそれを政府の政策や法律の次元ではなく、個人のライフスタイルの次元にまで落とす点で特徴的である。そしてライフスタイルの見直しは、農への関心と結びついている。このように、自己と開発プロジェクトとの関係の中で、農的なライフスタイルが導き出されているというのが、一つ目の知見である。第二に、AFN 参加者のアイデンティティ構築の鏡として中国が位置づけられている。香港ナショナリズムは、中国との関係の中で形成されてきた。AFN の場合、商業的に生産された「悪い」食の象徴として大陸中国の文化が意味づけられている点に特徴がある。以上のように、香港の AFN は反資本主義的な性格を持つ一方で、食の純粋さの追及が反中国的な感情を生み出すという形の「ローカルの罠」の現れ方をしている。

【文献】

安藤丈将, 2012, 「中国の経済開発と新しい農的生活の現在」『季刊ピープルズ・プラン』 57.

Goodman, David E., Melanie DuPuis, and Michael K. Goodman, 2012, *Alternative food networks: knowledge, practice, and politics*, Abingdon, Oxon; New York: Routledge.

DuPuis, E. MeLanie and David Goodman, 2005, “Should we go “home” to eat?: toward a reflexive politics of localism” in *Journal of Rural Studies*, 21.